

# 抗セントロメア抗体が卵および胚に及ぼす影響

日高 直美<sup>1)</sup> 城田 京子<sup>1)</sup> 詠田 由美<sup>2)</sup>  
本庄 考<sup>2)</sup> 宮本 新吾<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 福岡大学医学部 産婦人科

<sup>2)</sup> アイブイエフ詠田クリニック

**要旨：**自己抗体，特に抗核抗体（antinuclear antibodies: ANA）と不妊の関係が近年報告されている．ANA の1つである CREST 症候群に特徴的な抗セントロメア抗体（anticentromere antibodies: ACA）と不妊との関係を調べるため，生殖補助医療（ART）症例を ACA 陽性患者（ANA+/ACA+: AC 群 n=19），ACA 以外の ANA 陽性患者（ANA+/ACA-:AN 群 n=59），ANA 陰性患者（コントロール ACA-/ANA-: C 群 n=100）の3群に分け，卵の成熟度，正常受精率，多前核胚出現率，胚分割率を後方視的に調査した．IVF（in vitro fertilization）では，AC 群で正常受精率が有位に低く，多前核胚出現率が有位に高かった．分割率は AC 群及び AN 群で低い傾向にあった．ICSI（intracytoplasmic sperm injection）では AC 群で GV（germinal vesicle）率及び M I（metaphase I）率が有位に高く，M II（metaphase II）率は有位に低かった．正常受精率及び分割率は AC 群で有位に低く，多前核胚出現率は有位に高かった．以上より，ACA が卵の体内での成熟及び胚の体外での発生に負の影響を及ぼしていることが示唆された．

**キーワード：**抗核抗体，抗セントロメア抗体，受精率，多前核胚，ART